

工場軽作業、ロボが代替

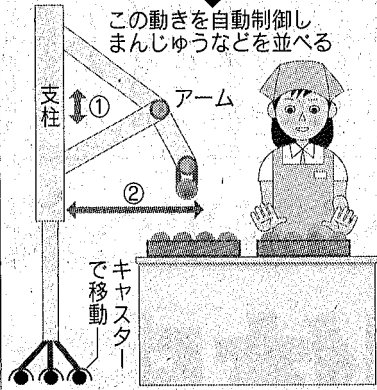
スキューズ開発 移動式で小型

生産ライン設計・施工のベンチャー企業のスキューズ（京都市、清水三希夫社長）は、工場での軽作業に使う小型の移動式ロボットを開発した。箱詰めに使った場合、文房具のコンパスのような機構を活用し、モノを運ぶアームをつけた構造。人に代わって、モノ（1キログラム）を運んだり箱に詰める。11月の製品まで、を運んだり箱に詰める。方向などは自動めたりする。方向などは車の組み立て・溶接などに使う大型ロボットが置ける。本体の幅は21センチ、奥行きは81センチで、重さは約30キログラム。キャスター付きの狭い工場・スペースでの利用を見込む。新ロボットは支柱に、の台座に載せて動かす。

新ロボットを使った箱詰め作業

- ①が伸びれば②は短くなる
- ①が縮めば②は長くなる

この動きを自動制御し、まんじゅうなどを並べる



産業用ロボットは安全対策から「モーター出力は出力を規制未満に抑えた。柵を設ける必要は少ない」と、設置場所の制約が少なくなると、新ロボットは支柱に、の台座に載せて動かす。